

2009（平成21）年度 京都大学 入試問題 文系 第1問 解答例

問一 （ア） 杵 （イ） 概 （ウ） 範 （エ） 朗朗 （オ） 緊迫

問二

百科事典の執筆をしたおかげで、必ず書くべきことを決め、言葉の無駄をなくし、これ以外にはないほど手短だが分かりやすい文章を書く、またとない訓練になったということ。

問三（文系のみ）

音読すると円滑に快く読め、理解される、音読に耐える文章の要素として大事なリズムを、一定の韻律と誤認し、他の点で詩にならない文章にあえて定型の韻律を与えると、通常の詩や散文以下の滑稽で卑俗な歌謡風になるということ。

問四

名文のほまれ高い古典の文章を、原文のもつ言葉の響きとリズムやその効果を完全に欠いた、分かりやすいだけで音声面を無視しすぎる現代日本語訳で読むことは、意味の伝達を超える生き生きとした言葉の本質を損なうから。

問五

「文学的表現」という言葉を、無駄な修飾や歪曲としてけなす意味で使うのは、言葉のあらゆる機能を発揮させることを文学が最重要視していると知らないからである。また、意味の伝達にとどまらず、音読に耐えるだけの、生き生きとしたリズムのある文章を書く困難さをも理解していないから。（解答欄 七行を近年の五行に改めた場合の解答）